公立大学法人福島県立医科大学附属病院

第41号
発行日 平成30年3月30日

福島医大病院ニュースレター

編集・発行/附属病院患者サービス向上委員会

〒960-1295 福島市光が丘1番地／TEL（024）547-1111　ホームページ　http://www.fmu.ac.jp/byoin/index.php

新任挨拶

呼吸器内科
部長　柴田　陽光

この度、呼吸器内科部長に着任いたしました。今後、県民の皆様の肺の健康を維持すべく努めてまいりたいと考えております。

呼吸器内科は主に「肺炎」、「肺癌」、「気管支喘息」、「慢性閉塞性肺疾患（COPD）」という肺、気管支に関する病気を扱う診療科です。私の前任地での調査によりますと、呼吸器の病気は非常に患者さんの数が多く、上記を合わせますと、死因のナンバーワンであることが明らかになっております。よって、呼吸器の病気を上手に管理・治療することは、健康寿命の延長につながると考えられるのであります。

中でも特に力を注ぎたいと考えているのは、「COPD対策」です。初めて、この病気の名前を聞く方もいるのではないかと思いますが、いわゆる「タバコ肺（肺気腫、慢性気管支炎）」で、長年タバコを吸うことにより、肺と気管支が傷んでしまうため発症してくる病気です。初期には「せき」や「たん」といった症状が出ることがありますが、その段階ではあまり症状が強くないため罹っていることに気づかないという特徴があります。そして、息苦しさが生じるようになってきてようやく診断され、その頃にはかなり進んでしまっていることが多いのです。

この病気は「肺癌」や「心筋梗塞」という怖い病気の元になることも知られております。福島県において、COPDの早期発見に取り組むことで、この病気だけでなく、肺癌や心筋梗塞の患者さんを少なくすることが、私の目標の一つです。

形成外科
部長　小山　明彦

平成29年12月1日付けで、形成外科部長を拝命しました小山明彦（おやまあきひこ）です。上田和毅名誉教授により平成10年に開設され、多大な貢献を果たしてきた当科を引き継ぐこととなり、大変身の引き締まる思いです。

形成外科はケガや腫瘍あるいは先天的な疾患などが原因で体に生じた組織欠損や変形を対象とし、あらゆる技術を駆使して、機能はもちろん、形態的にもより正常に、より美しく再建することを目的とし、みなさまの生活の質 "Quality of Life" の向上に貢献する外科系の専門領域です。

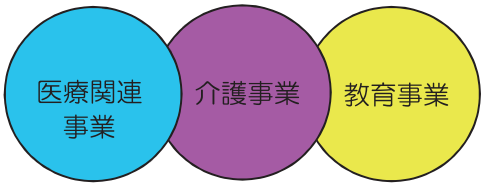
具体的な治療対象は、切り傷・擦り傷・顔面の骨折などの外傷、唇裂口蓋裂、耳介変形、胸郭変形、多指症・合指症などの先天性形態異常、皮膚の良性および悪性腫瘍、傷あと・ケロイド、やけど、床ずれや下肢の皮膚潰瘍、でべそ、あざ、そして乳房再建のような他科における手術後の組織欠損や変形の再建など、非常に多岐にわたり、私たちは知識と技術の向上を目指して日々努めています。

私自身は郡山市出身で、福島県立医科大学を卒業後、北海道大学形成外科で主として頭蓋顎顔面外科、すなわち顔と頭の形成外科を専門領域として診療・研究に従事してまいりました。今後はこれまでの当院における形成外科診療にさらにこの専門領域を拡充、発展させ、地域のみなさまに最高の治療が提供できるよう全力を尽くしてまいります。

第41号のなかみ

1ページ … ○新任挨拶
2ページ … ○平成29年度病院長特別表彰が授与されました
○麻酔・疼痛緩和科　術前診察外来は、手術棟2階です
3ページ … ○「けやきの会」リレー通信 ○「けやきの会」受賞報告
○リハビリテーション総合実施計画書の運用を開始しました
4ページ … ○「福島県の現状と減塩のすすめ」○退任挨拶

全国展開するニチイの3つの事業



株式会社 ニチイ学館
福島市栄町6－6　UNIXビル3F
TEL 024－524－2835　Fax 024－522－0306

マチのほっとステーション
LAWSON
ローソン福島県立医科大学附属病院店（エレベーターホール隣）
ローソン福島県立医科大学店（7号館内）
ローソン福島県立医科大学会津医療センター店

平成29年度病院長特別表彰が授与されました

附属病院の経営改善や業務改善、あるいは事故の未然防止、教育・研修・診療等に特に努力し、それぞれ功績が顕著な団体等に毎年、病院長特別表彰を授与しています。

今年度は次の６団体に決定し、３月14日に表彰式が行われました。

◆麻酔・疼痛緩和科

安全管理体制の更なる充実のためにインシデント対策に積極的に取り組み、重大な事故の発生の未然防止に努めています。

◆手術部

手術枠の拡大・再編とその順調な運用のために尽力し、業務改善に多大な貢献をしました。

◆医療安全管理部

特定機能病院の承認要件の改正に対応した医療安全管理体制の拡充や、手術室棟に整備された検体処理室の運用のために尽力し、多大な貢献をしました。

◆患者サポートセンター、看護部

PFMの考え方に基づく効率的な病床利用のために尽力し、病床利用率向上及び在院日数短縮に貢献しました。

◆多職種精神科治療支援チーム

心身医療科の治療において、多職種が連携して質の高いチーム医療の実施に努め、病院機能評価でも高い評価を受けました。

麻酔・疼痛緩和科　術前診察外来は、手術棟２階です

2017年10月10日から術前診察外来は、手術棟２階に移転しました。当外来への入り口は、きぼう棟とみらい棟をつなぐ２階の長い通路の途中にあります。

当外来では、当科が麻酔管理を受け持つ全ての予定手術患者様の診察をしています。医療面接と身体診察、そして各種検査結果から患者様の状態を評価し、麻酔や手術を安全に受けていただくことが可能であるかを判断するのが目的です。したがって、患者様には受診前に血液検査、心電図検査や胸部エックス線写真撮影などの検査を受けていただきます。診察後、必要時には追加検査、心臓や呼吸状態などの他科での評価、また手術に先立つ心臓・肺疾患・糖尿病などの治療をお願いする場合もあります。その上で、手術内容や患者様の状態をふまえ、さらには可能な限り患者様のご希望にも沿える麻酔法を提案させていただきます。麻酔法には、全身麻酔（意識がなくなる）と部分麻酔（神経の近くに薬を注射する）がありますが、これらの中から安全で十分な鎮痛効果を持つ方法を選び、患者様へ情報提供します。それに伴う合併症の危険性についても説明し、患者・ご家族様の納得が得られた場合には、書面での承諾をいただきます。

ボランティア活動を通して

「けやきの会」会長　**渡辺　多恵子**

外来患者さんをお手伝いするボランティアを50代で始めて早20年が経過しました。最初の頃はいろいろ心配事もありましたが、今ではメンバーで毎朝順調に活動を続けています。私たちの活動も今ではすっかり患者さんに定着し、頼りにしていただける存在となりました。

最近では核家族化や高齢化が進み、付き添いができるご家族が少なくなっているのでしょうか。車椅子の患者さんが一人で診療科を受診する姿や入退院をお一人でされる姿も時々拝見します。ボランティアの人数がもっと多ければ、いろいろな要望に応えることも出来るのですが、患者さんお一人にずっと付き添うことができないのが現状です。

家で何もしないでいる時は、つい食べ物に手が伸び、こたつに入ってテレビを見ていると上瞼と下瞼が仲良くなり居眠りをしてしまいます。活動に来れば、立って、歩いて、患者さんやボランティアメンバーと会話をすることが楽しみです。他のメンバーとも「細く長く続けていこうね」と話しています。誰かのためではなく、自分のためと思い健康に留意して楽しんで活動を続けていきたいと思っています。私たちと一緒に活動をしてくれる人が増えることを期待しています。

受賞報告　病院経営課

平成30年2月24日に開催された「第20回ふくしまボランティアフェスティバル」において、外来患者さんの受診受付のお手伝いや院内の案内、車椅子での移動の介助、季節に応じたフラワーアレンジメントなどのボランティア活動の功績を称え表彰されました。

◇知事感謝1名
◇福島県社会福祉協議会会長表彰4名
◇福島県社会福祉協議会会長感謝2名

リハビリテーション総合実施計画書の運用を開始しました。

平成30年1月より、リハビリテーション総合実施計画書の運用を開始しました。リハビリテーションを開始するときには、必ず計画書を作成します。今まではリハビリテーション実施計画書をリハビリテーション科のみで作成してきましたが、リハビリテーション総合実施計画書は、主治医、看護師、リハビリテーション医、理学療法士、作業療法士、言語聴覚師など患者様に関わる多職種で作成します。そのため内容も充実し、疾病や、機能障がい、日常生活、社会生活の状況などから始まり、リハビリテーションを行う上でのリスクや、リハビリテーションとして具体的に何を行うかが、前の計画書と比べ、わかりやすく記載されています。用紙もA4 1枚から2枚になり、文字も大きくなり、より読みやすくなりました。

リハビリテーションは機能回復のみを目的とするものではありません。患者様のこれからの生活をみすえ、残された能力を最大限に回復させ、また新たな能力を開発し、自立性を向上させ、積極的な生活への復帰を実現するために行われる一連の働きかけです。私たちは、リハビリテーション総合実施計画書を通してより良いリハビリテーションを提供していきたいと思います。

「福島県の現状と減塩のすすめ」

医事課　栄養管理・給食管理　椎根　尚子

厚生労働省の平成29年度人口動態統計特殊報告で、急性心筋梗塞の年齢調整死亡率は、全国的に低下傾向である中、福島県は高くなっており、問題となっています。

心疾患の危険因子として、高血圧、年齢（65歳以上）、喫煙、脂質代謝異常、肥満、家族歴、糖尿病などが挙げられますが、今回は血圧と関連のある減塩についてのポイントをお伝えします。

減塩のポイント

1. 調味料の食塩量、外食・市販品の食塩量を知り、多く使用しない。（食品の袋などの栄養成分表示の食塩相当量をみる）※
2. 漬物は食べる量を半分にする、浅漬けにする、ピクルス（酢漬）にする。
3. お浸しはしょうゆを減らす、ポン酢・だし割しょうゆ・減塩しょうゆを使用する。
4. 味噌汁は半分にする。
5. 麺類のつゆは残す。
6. 調味料は「かけず」に「つける」で。
7. だし、香辛料、酢などを活用する。
8. 減塩の調味料を使用する。

※食塩相当量が記載されていない場合は
ナトリウム（mg）×2.54÷1000＝食塩量（g）で計算することができます。

最後になりますが、厚生労働省の平成28年国民健康・栄養調査では、20歳以上の食塩摂取量が、全国平均が男性：10.8g・女性：9.2gですが、福島県では男性：11.9g（全国第1位）・女性：9.9g（全国第2位）となっていることも念頭においていただき、減塩に取り組んでいただけることを願っております。

退任挨拶

神経内科部長　宇川　義一

2007年5月から2018年3月までの11年間、福島県立医大神経内科教授として任期を全うできましたことは、多くの皆様の支え合ってのことです。まずは、この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

我々の講座は、先代の山本悌司先生が築き上げられた教室です。着任早々に医局員の皆が臨床神経学を実直に実践している姿を見て、この教室を継承し、かつ私なりの発展をさせ、次代へと更に繋いでいかなければと、身が引きしまる思いがしました。

診療に関する私の理念は、まずは、神経内科医はあらゆる神経疾患の診療が可能であるべきであり、サブスペシャリティーと両立させるべきであるというものです。これは山本先生も同様のお考えをされていたと推察しております。昨今、国際的には更に細分化されたスペシャリストによる疾患の集約化、それによる多数例での論文報告がなされている印象を受けますが、あえて専門外来は作らない方針で、地域の神経内科医を増やすことを第1の目標として運営して参りました。また、診療に関しては当然ながら大学病院のみで完結するわけではありません。関連病院の多くの同門の先生方の協力があってはじめて地域医療として成り立つわけです。この場を借りて行き届かない私を支え、共に医局の発展にご尽力いただいた皆様に感謝申し上げます。

一方で、今後は社会的ニーズに答え、かつ国際的競争力を得るためにも、バランスをとった診療体制作りが必要になってくるものと考えます。この一つの試みとして2017年に脳神経外科、心身医療科と共に立ち上げた脳疾患センターでは認知症外来も開設していますが、まだ始まったばかりです。今後の発展に関しては次世代の人たちにお願いしたい部分です。

皆様、長いこと本当にありがとうございました。

すべてを地域のために
東邦銀行
ご利用・お問い合わせは 福島医大病院支店
窓口営業時間：平日午前9時から午後3時
電話　024−548−5331　（受付時間:平日午前9時から午後5時）

スターバックスコーヒー福島県立医科大学附属病院店
営業時間　平日　7時〜20時
土日祝　9時〜19時
アメリカ シアトル生まれのスペシャルティコーヒーストア。
高品質のアラビカ種コーヒー豆から抽出したエスプレッソがベースのバラエティ豊かなエスプレッソドリンクやペストリー、サンドイッチをお楽しみいただけます。

※次号は、6月下旬に発行を予定しています。